

北原・現代俳句選書 35

小澤克己句集

春の庵

未
来
へ
の
橋
の
真
中
で
初
日
浴
ぶ

斧
始
め
し
て
全
山
に
熱
気
呼
ぶ

何の影追ひ雪原の鷹ならむ

寒明けの海全面で日を返す

点景のやがて絶景鳥帰る

初蝶に植物図鑑開けておく

旅行かむ春オリオンを冠に

一歩とは永遠への意志や青き踏む

彫刻の女
仰向く
春暖炉

青鰻や
山樹を
囲む
風の音

地下に水奔らせ麦を踏んでをり

桃の花ひと日を妻と遊びけむ

春
耕
の
前
も
後
ろ
も
小
糠
雨

蛤
に
前
世
の
こ
と
を
聞
い
て
を
り

森奥のちらと見えたり櫻餅

壺焼や一合枘の溢れをり

櫻狩る女の影と谿の音

猫だけが住んでゐる町花ぐもり

一さしの舞こそ佳けれ夕櫻

篝火に花見小袖の刺繍浮く

月揚ぐる円蔵院の糸櫻

蝌蚪生れて金剛界の曼荼羅図

春風や櫛形塀の瓦葺

祝・吉野のぶ子句集『八重櫻』

磨かれし一樹となれり八重櫻

春障子すらりと蒼き朝があり

星宿に水ひびかせつ山葵沢

栞糸うすくれなゐに初牡丹

すれ違ふ僧に新樹の匂ひせり

祝・小島とよ子句集『新樹光』

汝が詩に美魂あふるる新樹光

杭ひとつ打ち万緑に意を決す

菖蒲湯を出て公達
の目鼻だち

夕立の街が微塵
になつてをり

軽鳧の子に湖は大きな玩具箱

祝・中川二毫子句集『夏木立』

夏木立まどふは蒼き恋衣

祝・稲辺美津句集『夏椿』

天 啓 も 詩 恩 も 白 し 夏 椿

帰港して南風もろともに帆を下ろす

生れたての蜻蛉ならば君訪はむ

あの頃の少女と出会ふ夏帽子

夕涼の部屋の真中に画架を据う

山巔に岩あり岩に苔の花

玉葱の転がるやうに妻の来し

この街に子の住み初めし矢車草

沖に出て能登麦秋の星数ふ

一島へ青葉潮縫ふ舳先かな

奥能登をひつくりかへし驟雨来る

暮れ方の舟足ゆるし遠雪溪

朝
焼
の
汀
に
漁
る
鳥
の
影

香
水
の
若
き
眠
り
へ
肩
を
貸
す

今朝秋の馬籠格子のやうに雨

新秋の馬柵に腰掛け雲呼び

句集 春の庵

北渎・現代俳句叢書⑨

発行日……平成十五年五月三十一日 発行

著者……小澤 克己

発行人……小島 哲夫

発行所……北渎 社

東京都新宿区高田馬場四―一六―五〇一

郵便番号 一六九―〇〇七五

電話 〇三―五三三―八一五〇六五

FAX 〇三―五三三―八一五〇七〇

振替 〇〇―一四―三―七六八六〇二

©2003 Ozawa katsumi Printed in Japan

ISBN 4-89448-410-2

落丁・乱丁はお取り替えいたしません